

令和元年度 第2回政策討論会第一分科会要点記録
『企業誘致について』

日 時 令和元年8月13日（火）午前10時00分～10時30分

場 所 第一委員会室

出席者 西田武史（座長）、井舎英生（副座長）、
倉田賢一郎、田中市子、鳥野隆生、桑原佳一、松本妙子、鳥居宏次

本日の討論会では、テーマに対して明確な目的の共通認識を図るため、各委員が感じている本市の問題点を発表した。各委員の発言要点は、以下の通りです。

①大学を誘致してはどうか。

昔は、桃山学院大学も北野田にあったが、今は和泉市に移転して、毎日たくさんの学生で賑わい、和泉中央駅もかなり発展してきている。近大医学部も泉北ニュータウンに移転すると聞いている。

大学を誘致することにより、駅や周りの環境が大きく変わって、人の流れも活発になってくると考える。

また、ソフトボールなど、たびたび優勝している。全国レベルの岸和田にグラウンドがないというのもおかしい話。

これまで1度、全国大会の開催地の話があったが、グラウンドがないという理由で断っている。

毎年2回開催する全国大会は、1チーム15名の選手と監督等3名の引率者。

そこに家族等の応援団が付いて来る。

それが全国45チームぐらい出場し、ホテルも部屋が満室。

岸和田にもやっとホテルができ、あとはグラウンドだけ。

全国で優勝するなんて大変なことなのに、もっと岸和田中で喜んであげるべき。喜び方が足りないのでは？

グラウンド建設が市だけで大変なら、府と相談して、協力してもらおうとか、もっと前向きな姿勢が大事だと思う。

②【岸和田市の現状把握】

運送業者より本市における物流センターの設置について相談を受けたことがあるが、近年、通信販売などにより物流の需要が拡大している。この泉州エリアにおいては空港や港湾等、本市がバランスの良い立地条件であると聞いた。業種によっては本市にも魅力があるということだが、そういった潜在的な魅力をアピールできていないのではないかと思う。また、本市ウェブサイトの企業誘致のページは2018年には更新されておらず、2019年においても1件のみの更新です。企業誘致に対する積極的な取り組みがなされていないように感じる。

③本市の企業誘致をする地区としては、阪南2区や丘陵地区がある。

企業誘致として、雇用や税収を増やせる、また、地域も活性化するなどのメリッ

トがあり、2025 年の大阪・関西万博が開催されるにあたり、多くの企業が関西へ進出すると予想される。

本市では、地方卸市場はあるが、総合市場ではなく、南大阪で核となる総合市場を誘致することが望ましいと考える。

- ④岸和田駅前通商店街など、市内の商店街が祭り以外では閑散としている。
空き店舗も多いが、賃貸料が高いため、活用できていない状態。
市が補助をするなどして企業や福祉事業所などが店舗として利用しやすくし誘致することで、商店街の活性化にも繋げることができるのではないかと考える。

- ⑤市長のトップセールスによる誘致に期待する。

- ⑥本市では、阪南 2 区、丘陵地区ゆめみヶ丘において「企業誘致」が順調に進められている。企業誘致という目的が考えられるのは、臨海部の「木材コンビナート」である。コンビナート全体で見ればまだ木材に関係した企業が見受けられるが、大阪府の管理下にある木材を貯留するための海面が広大にある。かつては「卸売団地」誘致の構想があったが頓挫している。企業誘致の目的を考えれば大阪府との連携の元、倉庫業や運送業等の一大流通拠点を目指すべきである。

- ⑦ 1. 行政主導により企業進出のためのインフラ整備を行う。具体的には、駅周辺の空き店舗を市が借り上げて、ICT 企業等のサテライトオフィスを誘致する。
2. 新規企業と市との接点（見合い）の場を作る。議員も手伝う
3. 既存の企業と市との交流を促進する。議員も手伝う。
4. 岸和田に圧倒的に足りないものは、ホテル等の宿泊環境である。

- ⑧本市の現在の企業誘致は、阪南 2 区と丘陵地に限定した企業誘致のみである。
ホテル誘致は、近隣市に比べても優位性の高い内容であるにもかかわらず、一向にホテル業界が見向きもしないのはなぜか。泉佐野市ではホテルはもとより、民泊施設も多く存在し、街中がインバウンド観光客であふれている。
本市は民泊施設もたった 1 件しか登録がされていない寂しい現状である。これら二つの誘致制度をもう一度見直し、拡充、つまり、企業は場所の限定を外し、もっと中小企業も活用できるような制度にする。また、ホテル誘致は、現行の最低 30 室の限定を解除して民泊施設も参入可能にするなどの手だてが必要である。

※ 次回は、担当部局より現状を具体的に説明してもらい、課題を絞り込む。